

**第2回
わっしょい！
2025**

たくさんのご参加
ありがとうございました！

第1部 子ども&防災キッズパーク

- 久留米広域消防本部
- あらりかじゅんぐる
- そなえるくるめ
- じじっか
(一般社団法人 umau.)
- 久留米市立小学校
- NPO法人 舞台アート工房・劇列車
- 自衛隊
福岡地方協力本部
- NPO法人 むげん企画
- チラシ
コンテスト
- ドローン隊
- 防衛省
自衛隊

[開催レポート ダイジェスト版]の閲覧を希望される方は、みんくるまでお問い合わせください。

ヨカゴツこんさる
- NPO経営の専門相談会 -
相談者のお悩みに合わせてNPO経営の専門家
がお応えします。予約制です。

開館時間 月～土 10:00～21:00 / 日・祝 10:00～19:00
休館日 毎月 第3月曜日（祝日の場合は翌日）年末年始

〒830-0031 久留米市六ツ門町3-11 くるめりあ六ツ門 6階
☎ : 0942-30-9067 Fax : 0942-30-9068
✉ : info@kurume-kyodo.jp

編集・発行
久留米市市民活動サポートセンター みんくる
指定管理者
久留米ガス株式会社・くるめ協働CASE PJ 共同体



みんくるHP

WASSHOI!

わっしょい！市民活動 くるめ

vol.7
2025

- 活動団体クローズUP -

iサイクル

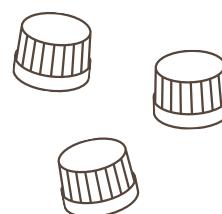
- 市民活動 Sign me up! -

- ・第2回 わっしょい！2025 開催レポート
- ・ヨカゴツこんさる-NPO経営の専門相談会-



「私」から始める、愛と思いやりの循環。
～ペットボトルキャップでつなぐ、地域の居場所と国際協力～

iサイクル



iサイクルさんは、ペットボトルキャップの回収を通じて海外支援を行っている、草の根の国際協力団体です。寄付金は、^{アイサップ}ラオス・マラワイで活動するISAPHや、フィリピンのカノッサ修道女会を通じて、現地のお母さんとこどもたちの健康支援に役立てられています。

代表の 坂西 信平 さんにお話を伺いました。



月に一度の作業会♪

様々な方が参加
しています



楽しい分別作業♪

しゃべりながらするも良し
もくもくとするも良し
安心できる場です

自然と広がった協力の輪

「クマの形をした透明な容器にキャップ
がたくさん入っているのを、偶然見かけ
たんです。」

と、目をキラキラさせて話す坂西さん。
職場で一人でキャップの洗浄を始めたところ、
「清掃の方やスタッフたちが、何も言わずに
協力してくれるようになり、『これは意味が
ある作業だな』と確信しました。」

活動が広がると、キャップを送る際の
送料が課題に。この課題を解決するた
め、2010年に団体を設立しました。

リサイクル業者や運搬会社を探し、想
いを込めたメールを送ったり、直接会
いに行ったりとした地道な活動が実を
結び、現在に至ります。

協力してくれる
方が少しずつ
増えています
今の形があります



代表の坂西さん

iサイクル 作業会

毎月第2木曜日 17:30-18:30

場所：ケアハウスメゾンマリア2階
(久留米市津福本町字草場276-2)

メール：2010icycle@gmail.com

iサイクルは、毎月第2木曜日にメゾンマリア2階で作業会を行っています。作業会では、集まったキャップの分別や、支援先の方々との交流会をしています。皆さんのが集めたキャップは、ぜひこの作業会の日にお持ちください。作業会に参加できない方は、メゾンマリア1階にある回収場所をご活用ください。

活動の様子や今後
の予定はこちら



用途を終えたキャップが 思いやりのバトンに

作業会では、キャップをただ分別するだけでなく「今回の個数で〇〇円になりました」と参加者さんに報告しています。

「集めて終わりじゃなく『その先がどうなっているのか』を知ることで、活動に想いがこもる。だからキャップを『思いやりのバトン』と呼んでいます。」

iサイクルが集めているのは、リサイクル可能な資源。

『洗って仕分ける』という『面倒くさい作業』を通して、気持ちや行動、意識を変えていくことも、この活動の大切な目的の一つです。



活動実績

総数：43,254,698個
寄付総額：171万3733円

ありがとうの循環が生まれる地域の居場所づくり

iサイクルの作業会は、地域に開かれた活動の場となっています。

また、海外の支援先と随時オンライン交流を行い、活動の成果と感謝を分かち合っています。

坂西さんは、この作業会を
『ありがとうの循環が生まれる居場所』
だと語ります。

「普段、ケアされる立場になりがちな方が、ここでは主体的に参加し作業することで、周りの人から『助かるよ、ありがとう』と声をかけられる。また、支援先のこどもたちが元気に育っている様子や喜ぶ姿を見て、僕らも心からの『ありがとう』をたくさんもらう。だから、関わる人たちはみな対等な関係で、お互いにたくさん学び合い、ありがとうの循環が生まれているんです。」

iサイクルさんの活動は、誰でも気軽に参加できる国際協力です。ひとつのキャップが誰かの笑顔につながる、その一歩を踏み出してみませんか。

特定非営利活動法人ISAPH ラオス・マラワイ

支援金を妊婦健診や、低体重児の栄養支援など、母子保健の充実・施設の修繕・建設費などに充てています。



改修された施設の前に立つ
保健センターの職員

カノッサ修道女会 フィリピン

支援金を粉ミルクの購入に充てています。



キャップ600個が
1杯のミルクに変わる

わっしょい！ MEMO

iサイクルを「きっかけ」に、身の回りでできるリサイクルや国際協力、地域活動に興味を持つもらいたい、という坂西代表の言葉が印象的でした。